

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 眼球運動が否定的な記憶の 鮮明さと感情の強さ、想起内 容に及ぼす影響	共著	2014年5月	EMDR 研究 (日本 EMDR 学会) 6 巻, 1 号, pp.29-42	論文全体の概要: 否定的な自伝的記憶に対する眼球運動の効果を 実験によって検討した。大学生および大学院 生 24 名を対象とした。水平方向、垂直方向の眼 球運動、眼球固定を加えた 3 条件を設定した。 測度は、映像の鮮明さ、感情の強さ、回想量と 質、映像の変化量と質であった。その結果、眼球 運動は水平・垂直という方向の違いに関わらず、 鮮明さと感情の強さを低下させた。回想量と映像 の変化量と質は、眼球運動による違いは見られ なかった。 (総ページ数 14 頁) 著者:吉川久史, 市井雅哉 担当部分の概要: 研究立案、データ収集、データ解析、論文執筆 (pp.29-42)を担当した。
2 (報告・発表) 解離性障害を持つ児童への 自我状態療法とEMDRの併用 の効果判定	共著	2015年10月	明治安田こころ の健康財団研究 助成論文集 (明治安田こ ころの健康財団) 50 号, pp.27-36	報告全体の概要: 児童精神科に入院中の解離性障害を有する児 童 2 名に対して、解離の治療法である自我状態 療法とトラウマの治療法である EMDR を用いた介 入を行い、治療の有効性と工夫すべき点につ いて検討した。その結果、研究参加者である児 童は、内的葛藤が解消されるにつれて問題行動が 改善された。しかしながら、アタッチメントの治 療が優先される場合は、早急の導入は避ける方 がよいことが示唆された。 (総ページ数:10 頁) 著者:吉川久史, 杉山登志郎, 丸山洋子 担当部分の概要: 研究立案、データ収集、データ解析、論文執筆 (pp.27-36)を担当した。
3 (報告・発表) 自我状態療法—多重人格の ための精神療法—	共著	2016年2月	児童青年精神医 学とその近接領 域 (日本児童青年 精神医学会) 57 巻, 1 号, pp.123-130	報告全体の概要: 多重人格に対する心理療法である自我状態 療法について概説し、成人症例の事例 提示を行った。自我状態療法にはさまざま な方法が提案されているが、その中 で、①催眠トランス下で直接自我状態に アプローチする方法、②簡略版、③マッ ピング後に自我状態にアプローチする方 法を提示した。成人症例、子ども症例を 通じて、多重人格への積極的な治療の必 要性を説明した。 (総ページ数:8 頁) 著者:吉川久史, 杉山登志郎, 野村和代 担当部分の概要: 「Ⅱ. 自我状態療法の概要」「Ⅲ. 成人の 症例」(pp124-127)の執筆を担当した。